

技術士の社会貢献と「恩送り」

—先輩技術士から修習技術者へ、未来へつなげるもの—

Passing Down the Gift to Next Engineers

1 はじめに

私は地方に住む修習技術者のひとりで、本稿執筆の話をいただいた時は「まだ修習技術者の私には技術士としての社会貢献なんてできていない…」と大いに頭を悩ませた。同時に、「今までお世話になっている素敵な先輩技術士の活躍を書きたい！ご恩を返す良い機会かも！」と思いなおし、引き受けることにした。ただ、社会貢献という言葉は大げさすぎて私には書けない。そこで私は、社会貢献を「誰かに好影響を与えている」と広くとらえ、先輩技術士との交流から得たものについて修習技術者の視点で書いてみることにした。

2 技術士を目指して

大学時代、なにかで「技術士は『現場』の博士」という言葉を目にした。生物と「プロジェクトX」が好きだった私は、その言葉に惹かれ「『生物工学』の技術士になる！」と決意した。しかし就職先は環境分析の会社。臭気判定士や公害防止管理者など必要な資格を取りながら、作業環境測定士としてお客様の工場を楽しく飛び回っているうちに7年が経ってしまった。その後、「モノ作り」の内側に興味をもち、化粧品メーカーの生産技術部門に転職、同じ年に大好きな生物工学で一次試験に合格した。そこからが、私の技術士道の始まりだった。

3 二次試験の壁と日本技術士会での出会い

一次試験に合格したものの、私には生物工学部門の業務経歴はなく、二次試験に必要な業務経歴票が書けなかった。苦肉の策で、環境部門に変更して受験したものの、現職からは離れてしまい、モチベーションも続かなかった。そんなとき、青年技術士交流会で出会った先輩技術士から「君のやっていることは経営工学部門だよ！」と助言を



写真1 一次試験合格者ガイダンス後

もらった。この偶然の助言が、私に次の道を示してくれた（ご機嫌な「酵母の神様」が手助けしてくれたので、最初は信用しなかったけど!）。



写真2 青年技術士交流会のイベントで

私のように、一次試験に合格したものの、二次試験と業務経歴が合わず、目指すべき部門を見失ってしまう修習技術者が少なからず存在すると思う。それだけでなくとも技術士の学習期間は長く苦しい。先輩技術士に会い、目標とする技術者像を見つけ、彼らの話を聞くことは私たち修習技術者

にとって大きな糧となり、モチベーションを維持する絶好の機会になる。

技術士と出会うにはどうしたらいいか？ 一番簡単な方法は、日本技術士会や全国で開催されるCPDプログラムに参加することだ。特に、青年技術士交流会では、ほぼ全ての部門の若手技術士と出会うことができる。4月の「一次・二次試験合格者の交流会」を皮切りに、定期的に行われる交流会や勉強会では、技術士になりたての人からベテランまで、志を同じくする仲間や先輩から様々な刺激を受けると思う。特に、地方の受験者や、周りに技術士がいない人にはまたとない機会だ。

私は、受験部門が決まらなかった数年間も、今も、4月の交流会にだけは参加し続けている。

「気持ちを維持するために春は交流会において、『他力』を使い頑張れ!」、「人生会うべき人は必ず会える。だから常に志を」と声をかけ、「生物工学じゃないと受けない!」とごねる私を呆れつつ諭してくれ、適切な部門を助言し、手本となり、応援し続けてくださる先輩技術士。国が認めた技術者である彼らが語る、なにげない、けれどリアルな経験や気づきは、私のモチベーションを向上させ、視野を広げてくれている。

日本技術士会の中には「恩送り」の文化があるように感じる。この場合の恩送りとは、先輩技術士が修習技術者に与えるアドバイスであり、技術者間で貴重な経験や知識を共有することであり、またそれを受け取った私たちが別のそれらを必要とする相手に伝えることである。

本稿を書くにあたり、今までに出会った技術士関係者のことを思い出した。そして、再度、技術士や修習技術者に「技術士の社会貢献」について相談し回答を得た。皆、多忙な中、いち修習技術者である私のメールに丁寧に返信をくださった。そこには若手を育てよう、もてる知識を共有しよう、役立てよう、という「技術士の貢献意識」が根付いていると感じる。

4 今後の展望 技術を人のために。

私の今の目標は、先輩方のような技術士になることだ。そして、いつか、生物学、環境管理、経

営工学を融合させ、作業者が動きやすい工程を作るなど、学んだ技術を広い視野でつなぎ、人のために役立てたいと思う。私は、先輩技術士から沢山のご恩を受けた。私もまた、経験や技術力を積み、誰かに伝え、恩を次に送りたい。



写真3 東京タワーの麓で 先輩技術士と

5 おわりに

私の場合、目指す部門、業務経歴、受験部門が全く違っており、今、受験できることに感謝している。だからこそ、今までに出会い、影響を受け、今もお世話になっている、全ての技術士とその関係者にお礼を申しあげたい。なかには、部門変更やタイミングが合わず、なかなか会えなくなっている人もいるが、この場を借りて感謝を伝えたい。

最後に皆様にお願ひがある。

私は、技術者が語るリアルなドキュメンタリーが大好きだ。もしよければ、あなたが持っている「プロジェクトX」を沢山の人に聞かせてほしい。きっとそれは誰かをワクワクさせ、前に進む力を与える素敵な宝物になると思う。

『どこかでお話聞けますように。』

お目にかかれるのを楽しみにしています!』

小梶 真由子 (こかじ まゆこ)
修習技術者 (生物工学部門)

(株) ファンケル美健
作業環境測定士、環境計量士 (濃度)
e-mail : mayuko_1203@fancl.co.jp

